

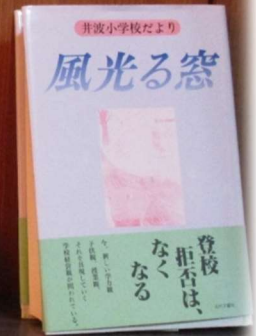
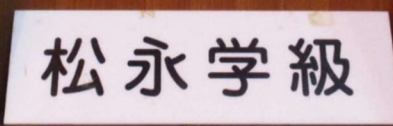


【 私の教師としての原点 井波小学校 】

○ 写真は、校長室の棚の上の様子です。左の書物は

「**きびしいなかよし**」、右の書物は

「**風光る窓**」、真ん中は「**担任時代の私の教室に掛けて**



あったプレート」です。どれも、以前に井波小学校に勤務していたときのものです。

○ 「**きびしいなかよし**」は、当時の四辻利弘校長先生が、校長だよりとして、「教室での出来事、授業や子供の様子」「教育や学校に対する考え方」等を書かれた文がまとめられている本です。これは、定期的に書かれた「校長だより」の中から、幾つかの文をまとめて出版された本です。この本によって、「**子供に寄り添う。**」「**授業が命だ。**」などの教育観を学び、教室等で起こる事実を基に、**子供の成長のために、私たち教員を鍛え育てていただきました。**私は、今でも時々読んでいます。

○ 「**風光る窓**」は、当時の学校だよりの文章をまとめられたものです。当時の学校だよりの名称は、「風光る窓」でした。A3版の大きさの両面刷りで、私たち担任は「**一人の子供の姿・変容**」を記述していました。なかなか簡単に書くことはできませんでした。子供の姿を「**点→線→面**」で捉えることの大切さを学びました。「**子供はすごい。**」「**子供の言動には意味がある。**」ことを、原稿を書きながら学んだものでした。

○ 「**教室に掛けてあったプレート**」は、それぞれの学級の担任の苗字を入れ、「松永学級」「鈴木学級」「山田学級」等のプレートが、各教室に掛けられました。「3年1組」「6年2組」等ではなかったのです。固有名詞を大切にされた四辻校長先生は、**学級は担任の個性とともにつくられる**という教育観をもっておられました。

○ 微力な私は、当時、今でも読んでいる「**きびしいなかよし**」「**風光る窓**」の両輪の下、**学級・授業づくり**に向けて自分なりに努力していました。そのときの自分を忘れないように、上記の三つをいつも目にする校長室の棚の上に置き、**井波の子供や教職員の成長を願って**、自分を奮い立たせ、今の学校経営に生かすよう努めているところです。今年度の後9か月、新たな気持ちで取り組んでいきたいと思えます。